

兵庫県議会議員 内藤兵衛

県政NEWS

No.19 2012.3

一日生涯

「一日生涯」は、内藤兵衛議員の座右の銘です。今日の一日を生涯と心得て、全力を出し切るという思いを込めています。



「選択と集中」で施策展開

一般会計2兆160億円、特別会計、公営企業会計を合わせ総額3兆1681億円にのぼる平成24年度の県当初予算案や受動喫煙防止条例、総合治水条例など86議案を審議する第312回定例会議会は2月17日開会し、3月22日、賛成多数により原案通り可決、閉会しました。

予算編成は、第2次行革プランに基づき施策の重点化を図る「選択と集中」を徹底、県民ニーズに的確に応える施策を重点的に展開することとしており、自民党議員団が提案した重要施策が数多く盛り込まれています。

第312回定例会 平成24年度県当初予算案を可決



井戸知事(写真右端)をはじめ、県幹部に持論を交えながら質問する内藤兵衛議員

地域の夢推進事業をどう展開

内藤県議は、2月24日、第312回定例会議本会議で一般質問に登壇しました。平成19年の県会議員初当選以来、毎年2月に開かれる予算案で一般質問に登壇し、今回で5度目。テーマは一貫して「地域の元気づくり」です。西脇・多可からは200人余が傍聴に参加、熱心に見守っていただきました。

内藤 平成23年1月の調査特別委員会で我が自民党県議団の提案を受けて始まった「地域の夢推進事業」は、各県民局が地域住民の声を聞きながら、地域特性

にあつた施策を行う非常に優れた手法だ。この取り組みを通じて、地域の活性化にどういった効果をもたらしたのか、また、それを踏まえて今後どう取り組む方針なのかうかがう。

地方の活力が再生の道を切り拓く

東日本大震災からほぼ1年、遅々として復興が進まぬ被災地に咲く草花一輪。過ぎに過ぎる季節の過酷さと春を運ぶ生命の強靭さを見る思いがし

ました。皆さまには、ご清祥でお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は、各般の活動に格別のご厚情を賜っており、心より

にこえる政策形成に全力投球してまいりました。自民党は「地方こそが原点」のスローガンを掲げて統一地方選を戦いました。民主党政権の無策ぶ

「地方の元気が国の元気につながる」といわれるゆえんです。現在の内政、外交面における課題を解決し、新たな再生の道を切り拓く

種々の局面で重要な役割を果たしてきました。いま、世情は「停滞」への苛立ちから、「維新の烈風」が吹き荒れていきます。政治が動かなくなつたときに、独裁が生まれ、衆愚に行き着く危険があることを歴史が証明しています。

内藤 兵衛

兵庫県議会議員
自民党県議団副幹事長

感謝申し上げます。さて、昨春、新議会の発足に伴い自民党県議団副幹事長を拝命し、井戸県政を支える責任政党の一員として、地域の願

りを目の当たりにして、今更ながら、この言葉の意味をかみ締めています。わが国は、民なる力の結集によって歴史的な困難を克服してきました。

のは、地方の活力である と確信しています。兵庫県は、財政の健全化に取り組み一方、地方分権の突破口といわれる 関西広域連合の設立以来、

政治に携わる者は、迎合することなく、基軸を踏みすえて勇断を持って主張する覚悟と決意が不可欠です。兵庫の地から地方分権を発信し、日本再生への尖兵たり続けることをお約束します。

答

杉原紙の魅力を発信する拠点施設の改築を支援し、開館日数、来場者数が増加して伝統文化や地域の歴史の承継、郷土愛の醸成にも繋がっている。農産物の加工販売等に取り組みグループに、ソフト事業と加工施設のハード事業を組み合わせた支援をすることで、新製品の開発を目指す動きも始まっている。アンテナショップ「北播磨おいしんぼ館」を平成24年4月に元町商店街で開設し、都市住民へ地域の魅力発信を行っていく。採択事業や事業効果のPRなど県民への的確な情報提供を行い、地域活性化につないでいく。

2面に続く

- ①「地域の夢推進事業」の取り組み
- ②地域の安全を守る治水対策の推進
- ③地域の活力を高める農業の振興策
- ④地域資源としてのシカ肉等の活用
- ⑤交流を生み出す道路整備の方針
- ⑥ふるさとを愛する教育の展開

質問項目

杉原川総合整備検討委員会の現地視察



河川緊急改善事業を活用せよ

内藤 西脇市内の古川、杉原川、野間川は、平成16年台風23号の浸水被害を受け、大規模な河川整備が進められ、効果は絶大だったが未整備区間が残っている。治水対策をどう進めていくのか。また、新規事業である『地域の河川緊急改善事業』をどう活用していくのか。

答 24年度から野間川芳田橋上流の堤防整備に着手。杉原川の市役所付近も井堰の早期改築に向け、利水者や地元関係者との調整を開始する。また、「地域の河川緊急改善事業」を活用し、西脇市・多可町内で実情に応じた速効性のある対策を実施していく。

用していくのか。

都市計画見直し改良急げ

内藤 西脇上戸田線は、相当な交通量があるが、多くが7mの幅員の二車線道路で、歩道も一部しか整備されていない。路肩に車を駐車する余裕もない。この度の西脇バイパスの供用、近い将来の西脇北バイパスの完成、丹波市と結ぶ(仮称)清水坂トンネルも事業が進み、国道175号から西脇市街への交通人口が増えるというとき、西脇の活性化はこの整備にかかっている。都市計画を今すぐにも見直し、改良に取りかかるべきだ。

答 都市計画道路西脇上戸田線の1.5kmのうち、東側0.5kmの区間で、西脇市と幅員の拡幅や上野交差点に右折レーンを設置する都市計画案の作成を進めており、24年度、都市計画変更を行った上で、事業着手していく。西側1kmの区間は住居移転等が必要のため、市と連携して沿道のまちづくりと一体となった整備手法の検討を進めるなど事業化に取り組む。

ち、東側0.5kmの区間で、西脇市と幅員の拡幅や上野交差点に右折レーンを設置する都市計画案の作成を進めており、24年度、都市計画変更を行った上で、事業着手していく。西側1kmの区間は住居移転等が必要のため、市と連携して沿道のまちづくりと一体となった整備手法の検討を進めるなど事業化に取り組む。

ふるさとを愛する教育施策は

内藤 子供たちが生まれて育ったふるさとを愛し、誇りを持ち、大きくなくても住みたい、地域を盛り上げていこうという気持ちを持つには、教育による「こころ豊かな人づくり」が果たす役割が大きい。子供たちにどのような施策を展開していくのか。

答 地域の良さを実感できる「体験的活動」と、国旗、国歌の正しい学びや兵庫版道徳教育副読本を活用した「学び」を両輪に、ふるさとや国に誇りや愛着を高める教育を進めており、未来を担う人材育成に努めていく。

井戸知事のさわやかトーク「道の駅かみ」にて



うれしの学園生涯大学の修了式でお祝いの言葉を贈りました

西脇市大木町の初総会で挨拶



「地域の元気」テーマに論陣

2月予算県会で5度目の登壇

内藤 北播磨地域では、約50の農産加工グループが、地域資源を活かした農産加工品の製造・販売に積極的に取り組み、6次産業化の活動が活発だ。6次産業化やブランド化に向けた農業者等の取り組みをどのように効果的に進めようとし、農業改良普及センターをどう活用しようと考えているのか。

答 北播磨地域の加工

シカ肉流通の啓発普及へ支援を

内藤 捕獲したシカ肉等を地域資源として活用し、地域活力の向上につなげていくことはできないか。2月9日に、地元の多可町でシカ肉の処理加工施設がオープンした。施設の運営が軌道に乗るようになるためには、これまでにも増してシカ肉の普及啓発や消費流通面へのサポートが必要だ。ブラン

答 学校給食や事業所内の食堂へのシカ肉供給の支援、さらには「ひょうご推奨ブランド」の認証取得による安全・安心なシカ肉の供給等を促進し、地域資源としてのシカ肉を活用した地域おこしも進むように、関係者とともに施策を展開していく。



多可町成人式で新成人にお祝いの言葉を贈った後、記念写真

ド化や消費流通の拡大に、どのような取り組みを行っていくのか。

多可町小規模シカ肉処理加工施設



西脇多可新人高校駅伝競走大会の沿道の応援に加わりました



発行 兵庫県議会議員 **内藤ひょうえ** 事務所

県政へのご意見はお気軽に TEL.0795-23-0417 FAX.0795-23-0418

ホームページ <http://www.naito-hyoe.net/> 折々の考えや思いを綴ったブログを掲載しています。ぜひご覧ください

